

NATURE

ネイチャー

7月 クマタカ



容姿端麗なクマタカの成鳥。黒い顔にオレンジの目が印象的だ

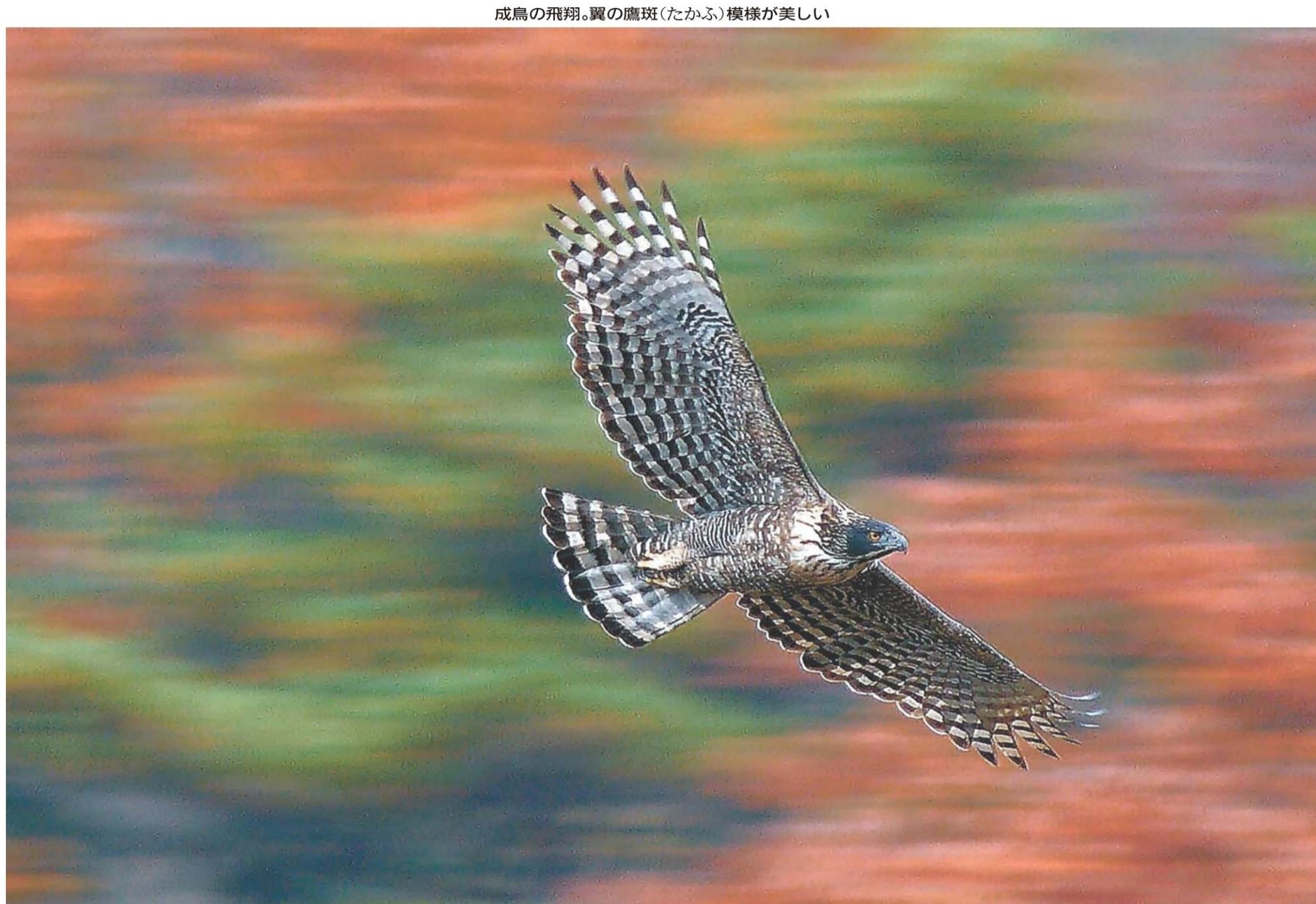
野生のいぶき
湖国のフィールドから
動物写真家 須藤一成

4



送電鉄塔での営巣は日本初確認。孵化後約40日の雛と母クマタカ

すどう・かずなり 1961年、京都府夜久野町(現福知山市)生まれ。イヌワシに魅せられ、滋賀を拠点に撮影に取り組む。米原市在住。写真集『Golden Eagle イヌワシ』(平凡社)など。



成鳥の飛翔。翼の鷹斑(たかふ)模様が美しい

米原で写真展開催中
米原市伊吹山文化資料館で須藤さん
が撮影した写真展「伊吹山にイヌワシ
が舞う」を開催中。26午後1時半から
まで、月曜休館。

ら、須藤さんが「伊吹山のイヌワシ
年の記録」と題して講演する。先着30
人500円。申し込みは同館074-30
4058(0252)。同展は8月6日
見えないで安全だからだろう。
見えないので外部からほんと
葉に隠されて外部からはほとんど
見えない。そこで、そびえ立つ
送電鉄塔に造られたクマタカの巣
を見た。鐵塔に営巣したクマ
タカは、これまで例がない。魚
食のミサゴが、山中の送電鉄塔に
営巣しているのは以前から確認
しているが、クマタカでは日本全国
で初確認だ。

外部から丸見えで吹きさらしの
鐵塔は、直射日光を遮るものがない
上に台風などの強風や雨を遮る
ものもない。親鳥が巣を離れた隙
にカラスに卵や雛をさらわれてし
まう可能性も高くなる。無事に雛
を巣立たせることができたのだろう
か?

僕の心配よろしく抱卵から育

雛へと順調に繁殖は進んでいっ

た。鐵塔の巡視ヘリが低空を飛行

した時には、親鳥はじっと巣に伏

せてやり過した。そしてついに
雛は巣立った。

このクマタカペアは、まわりに

巣造りができる木やスギがある

にもかかわらず、開放的な鐵塔を

選んだ。僕には、この鐵塔を選ぶメ

リットは分からぬが、何らかの

メリットがあるのだと思う。その

メリットを生かして、悪条件とも
思える鐵塔で繁殖を成功させた。

まさに先見の明ある新世代のクマ

タカ登場なのかもしれない。

鉄塔に営巣、雛巣立つ

クマタカは日本の山地に生息する大型の鷹である。僕が子どもの頃は、高い山が連なる日本アルプスなどの山岳地帯に生息すると圖鑑には書かれていた。ところが、学生になって、地元の夜久野町(現福知山市)で飛行するクマタカを見た。猛禽類に憧れてトビやサシバを追いかけていた僕にとって、クマタカはまるで遠い幻のような存在で、現実に目にすることができたのは夢のようだった。

その頃は、猛禽類を観察していく人は非常に少なく、クマタカの生態はほとんど分かつていなかつた。僕は、このクマタカが飛翔力に物を言わせてアルプスから飛んで来たのではないかと真剣に考えていた。クマタカが全国の低山から高山まで、広く生息していることが分かつてきただ現在では笑い話である。

このクマタカを自撮してから、猛禽好きの友人と僕とのクマタカ探しが始まつた。自転車で移動しそは山に登り、クマタカの巣を次々と発見していく。夜久野町での周辺で6ペアの巣を見つけた。6ペアのうち5ペアがアカマツに営巣し、1ペアはスギだつた。

その後、僕自身の行動範囲も広がり、全国各地でクマタカの巣を見つけたが、やはりその多くはアカマツだつた。それが近年では様変わりして、スギに営巣することが圧倒的に多くなつた。その理由はかつて大量に植林されたスギ

このクマタカペアは、まわりに
巣造りができる木やスギがある
にもかかわらず、開放的な鐵塔を
選んだ。僕には、この鐵塔を選ぶ
メリットは分からぬが、何らかの
メリットがあるのだと思う。その
メリットを生かして、悪条件とも
思える鐵塔で繁殖を成功させた。
まさに先見の明ある新世代のクマ
タカ登場なのかもしれない。

|| 第3水曜に掲載予定